

必修問題

必修問題

目標Ⅰ. 看護の社会的側面及び倫理的側面について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
1 健康に関する指標	A 人口静態・人口動態	a 総人口	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-1 「国民経済の現状」 (p.40~43) 公衆衛生 : 第6章 B-3 「健康指標の基礎資料——人口を把握する」 (p.135~138) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-1 「総人口の変化」 (p.30)
		b 年齢別人口	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-1 「出生」 (p.102~105) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-1 「国民経済の現状」 (p.40~43) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2 「人口動態および人口構成の変化」 (p.30~35)
		c 労働人口	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-1 「出生」 (p.102~105) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2 「人口動態および人口構成の変化」 (p.30~35)、A-5 「雇用状況の変化」 (p.42~44)
		d 将来推計人口	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-1 「出生」 (p.102~105) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-1 「国民経済の現状」 (p.40~43) 公衆衛生 : 第7章 C-2 「超高齢社会・人口減少・少産多死に向かう日本」 (p.193~194) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2 「人口動態および人口構成の変化—将来推計人口」 (p.33~35)
		e 世帯数	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-6 「家族の変化」 (p.114) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3-1 「世帯の変化」 (p.37)
		f 婚姻・家族形態	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-2 「結婚」 (p.105~106)、E-2-6 「家族の変化」 (p.114) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第3章 B-1-2 「多様化する女性のライフスタイル」 (p.121~124) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3-2 「家族の機能と役割の変化」 (p.37~39)
		g 出生の動向	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-1 「出生」 (p.102~105) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第1章 B-2 「出生と家族」 (p.9~12) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第2章 A-2-1 「出生に関する動向」 (p.58~60) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2 「人口動態および人口構成の変化—出生数の動向」 (p.30~32)
		h 死亡の動向	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-8 「死亡」 (p.117~119) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-2-1 「生と死の動向」 (p.49~51) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第1章 B-3 「子どもの死亡」 (p.12~15) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第2章 A-2-2 「死亡に関する動向」 (p.60~67) 公衆衛生 : 第6章 B-2-2 「死亡率」 (p.132~133) 社会保障・社会福祉 : 第2章 A-1-2 「人口動態および人口構成の変化—死亡数の動向」 (p.32)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		i 死因の概要	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-8 「死亡」 (p.117~119)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-2-1 「生と死の動向」 (p.49~51)</p> <p>公衆衛生 : 第 6 章 B-2-3 「死因」 (p.133~135)</p> <p>医学概論 : 付章 A-5 「死因統計」 (p.170~172)</p>
	B 健康状態と受療状況	a 平均余命	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-8 「死亡」 (p.117~119)</p> <p>基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第 1 章 A-4-1 「ライフサイクルからみた高齢者の特徴」 (p.20~22)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-2-1 「生と死の動向」 (p.49~51)</p> <p>公衆衛生 : 第 6 章 B-2-1 「平均寿命、平均余命、健康寿命」 (p.131~132)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 7 章 A-1-1 「長寿化の進展」 (p.162)</p>
		b 有訴者の状況	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-7 「高齢期」 (p.114~116)、E-3-1 「身体的健康」 (p.119~120)</p> <p>医学概論 : 付章 A-2 「有訴者率・通院者率」 (p.167)</p>
		c 有病率・罹患率	<p>公衆衛生 : 第 6 章 B-1 「疾患の発生状況を把握する」 (p.129~131)</p>
		d 受療行動・受療率	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-4 「わが国の患者と医療の特徴」 (p.123~126)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-2-2 「受療状況」 (p.51)</p> <p>総合医療論 : 第 3 章 A 「もしも私たちが病気やけがをしたら」 (p.56~70)</p> <p>医学概論 : 付章 A-2 「有訴者率・通院者率」 (p.167)</p>
		e 入院期間	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-4 「わが国の患者と医療の特徴」 (p.123~126)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 13 章 A-1 「医療提供体制・諸制度の変化」 内、「在院日数短縮化と診療報酬の改定」 (p.361~362)</p> <p>総合医療論 : 第 3 章 A-2-4 「入院から退院まで」 (p.63~65)</p>
		f 外来受診状況	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-4 「わが国の患者と医療の特徴」 (p.123~126)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-2-2 「受療状況」 (p.51)</p> <p>臨外看総 : 第 7 章 A-1 「現在の外来診療がおかれている状況」 (p.244~245)</p> <p>医学概論 : 付章 A-2 「有訴者率・通院者率」 (p.167)</p>
2 健康と生活	A 生活行動・習慣	a 食事・栄養	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-5 「健康的な生活」 (p.110~113)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 2 章 A 「食事援助の基礎知識」 (p.24~31)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)</p> <p>栄養学 : 第 8 章 「ライフステージと栄養」 (p.148~183)、第 10 章 「健康づくりと食生活」 (p.244~258)</p> <p>栄養食事療法 : 第 1 章 「栄養食事療法とは」 (p.1~11)</p>
		b 睡眠	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-5 「健康的な生活」 (p.110~113)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 4 章 B 「睡眠と休息の援助」 (p.116~126)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)</p> <p>解剖生理学 : 第 8 章 D-1-2 「睡眠」 (p.409~412)</p>
		c 運動	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-5 「健康的な生活」 (p.110~113)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 代謝障害	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)、第 5 章 C-4 「身体活動量低下と運動不足」 (p.173~175)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)、第 5 章 C-2 「飲酒がもたらす健康問題」 (p.171~172)</p> <p>栄養学 : 第 9 章 F-3 「栄養・代謝疾患患者の食事療法」 (p.214~222)</p>
		e 喫煙	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-5 「健康的な生活」 (p.110~113)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.43~48)、第 5 章 C-3 「喫煙と健康問題」 (p.172~173)</p>
		f ストレス	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 A-3 「こころとからだにかかるストレスの影響」 (p.60~64)、第 3 章 E-3-2 「精神的健康」 (p.120~123)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-1-2 「日常生活の状況」 (p.48)、第 5 章 B 「健康バランスに影響を及ぼす要因」 (p.164~169)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第 2 章 C 「危機理論とストレス理論」 (p.87~90)</p>
		g メンタルヘルス	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-3-2 「精神的健康」 (p.120~123)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 A-2-5 「心の病」 (p.56)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 序章 1 「『心のケア』と現代社会」 (p.2~4)</p> <p>総合医療論 : 第 1 章 B-2 「現代人の不健康感と社会生活のストレス」 (p.25~26)</p>
		h ライフスタイル	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 C-1 「生活者としての人間 : 生活の 3 つの側面」 (p.76~77)、第 3 章 E-2 「私のライフコースと日本人の平均像」 (p.101~119)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 B-1 「生活を営むこと」 (p.28~30)、B-2 「仕事を持ち、働くこと」 (p.30~34)、第 5 章 B 「健康バランスに影響をおよぼす要因」 (p.164~169)</p> <p>総合医療論 : 第 1 章 B-3 「ライフサイクルのなかの病」 (p.26)</p>
		i 性行動	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-1 「青年期 : 大人になること」 内、「発達の統合的な視点としてのセクシュアリティ」 (p.16~17)、A-2-2 「壮年期・中年期 : 大人であること」 内、「発達の統合的な視点としてのセクシュアリティ」 (p.24~26)、第 5 章 C-7-3 「性感染症」 (p.179~180)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「性行動の実態」 (p.257~260)</p>
	B 労働	a 職業と疾病	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 B-2 「仕事を持ち、働くこと」 (p.30~34)、第 2 章 A-2-4 「自殺・職業性疾患・作業関連疾患」 (p.54~56)、第 4 章 B-2 「職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護」 (p.157~160)</p> <p>病理学 : 第 1 章 C-3 「公害病・医原病・職業がん」 (p.10~11)</p> <p>精神看護学 [2] (精神看護の展開) : 第 11 章 D-2 「職場における精神保健・精神看護」 (p.327~330)</p> <p>公衆衛生 : 第 1 章 B-3 「富の増大と職業病——産業保健のはじまり」 (p.20~22)、第 9 章 A-1 「労働者の健康問題や労働災害」 (p.304~309)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 労働環境	<p>社会保障・社会福祉：第5章 D-2-1「労災保険のしくみ」(p.137~138)、第8章 F-1-3「疾病の社会化」(p.242~243)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第4章 B-2「職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護」(p.157~160)、第5章 C-1「就業・労働形態の変化がもたらす健康問題」(p.169~171)</p>
		c 雇用形態	<p>公衆衛生：第9章「職場と健康」(p.302~321)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第6章 D-5-2「労働環境の整備」(p.252~256)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第1章 B-2「仕事を持ち、働くこと」(p.30~34)、第5章 C-1「就業・労働形態の変化がもたらす健康問題」(p.169~171)</p> <p>社会保障・社会福祉：第2章 A-5-3「近年の雇用問題」(p.43~44)</p>
		d 母性保護と両立支援	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 E-2-4「子育て」(p.108~110)、第6章 D-5-2「労働環境の整備」(p.252~256)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論)：第2章 B-4「社会的文化的環境」(p.85~87)</p> <p>公衆衛生：第7章 A-6-3「父親の役割と親性をはぐくむ取り組み」(p.168~169)</p> <p>社会保障・社会福祉：第5章 D-1「雇用保険制度」(p.133~137)、第7章 C-5「少子化対策」(p.203~206)、C-6「保育施策」(p.206~208)、C-9「母子家庭等施策」(p.212)</p>
	C 生活環境	a 水・空気・土壌	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A-1-3「日常生活を取り巻く環境」(p.48~49)、第5章 C-6「生活環境衛生と健康」(p.176~178)</p> <p>公衆衛生：第4章 A-4「水質汚濁」(p.89~92)、A-5「大気汚染」(p.92~94)、A-6「土壌汚染」(p.94~95)</p> <p>医学概論：第8章 B-6「環境」(p.130~131)</p>
		b 食品衛生	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A-1-3「日常生活を取り巻く環境」(p.48)、第5章 C-6-1「食品の安全性確保」(p.177)</p> <p>栄養学：第10章 D「食の安全性と表示」(p.254~258)</p> <p>公衆衛生：第4章 B-2「食品管理」(p.99~102)</p>
		c 住環境・社会環境	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第5章 C-6-2「居住環境」(p.177)</p> <p>公衆衛生：第4章 B「身のまわりの環境と健康」(p.97~107)</p>
3 保健医療制度の基本	A 医療保険制度	a 医療保険の種類	<p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第4章 D-1「医療保険制度」(p.173)</p> <p>社会保障・社会福祉：第3章 B-2-1「医療保障制度の種類」(p.56~57)</p> <p>看護関係法令：第7章 A「費用保障」(p.207~214)</p>
		b 国民皆保険	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第6章 C-3-1「医療保険制度」(p.222~225)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第4章 D-1「医療保険制度」(p.173)</p> <p>社会保障・社会福祉：第3章 B-2「わが国の医療保障制度の特徴」(p.56~69)</p> <p>看護関係法令：第7章 A「費用保障」(p.207~214)</p>
		c 国民医療費	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 E-4「わが国の患者と医療の特徴」(p.123~126)</p> <p>社会保障・社会福祉：第3章 G「国民医療費」(p.80~84)</p>
		d 高齢者医療制度	<p>在宅看護論：第3章 A「在宅看護のしくみ」(p.40~58)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		e 給付の内容	<p>社会保障・社会福祉：第3章D「高齢者医療制度」(p.69～75)</p> <p>看護関係法令：第7章A-5「高齢者の医療の確保に関する法律」(p.212～214)</p> <p>在宅看護論：第3章A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)</p> <p>社会保障・社会福祉：第3章C-2「給付と患者負担」(p.64～68)</p> <p>看護関係法令：第7章A「費用保障」(p.207～214)</p>
	B 介護保険制度	a 保険者	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章B-1-4「福祉にかかわる対策—地域でのノーマライゼーションの広がり」(p.77～81)</p> <p>在宅看護論：第3章A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章B-2「保険者」(p.92～93)</p> <p>看護関係法令：第7章A-6-1「保険者等」(p.215)</p>
		b 被保険者	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章B-1-4「福祉にかかわる対策—地域でのノーマライゼーションの広がり」(p.77～81)</p> <p>在宅看護論：第3章A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章B-3「被保険者」(p.93～94)</p>
		c 給付の内容	<p>看護関係法令：第7章A-6-2「被保険者」(p.215～216)</p> <p>在宅看護論：第3章A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章B-5「保険給付」(p.95～104)</p>
		d 要介護認定	<p>看護関係法令：第7章A-6-3「保険給付」(p.216～219)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章B-1-4「福祉にかかわる対策—地域でのノーマライゼーションの広がり」(p.77～81)</p> <p>在宅看護論：第3章A「在宅看護のしくみ」(p.40～58)</p> <p>社会保障・社会福祉：第4章B-4「要介護・要支援の認定」(p.94～95)</p> <p>看護関係法令：第7章A-6-4「要介護認定および要支援認定」(p.219～220)</p>
4 看護の倫理	A 基本的人権の擁護	a 個人の尊厳	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章B-2-3「看護の質保障に欠かせない要件」(p.30～37)、第5章B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.172～173)、C-1「看護の本質としての看護倫理」(p.183～184)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章F「看護実践における倫理的判断」(p.120～128)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論)：第1章G「母性看護における倫理」(p.42～47)</p> <p>在宅看護論：第4章E-1「個人の尊厳」(p.120)、付章B-1「在宅看護の対象者の権利」(p.381～382)</p> <p>公衆衛生：第1章C-3「日本国憲法のなかの公衆衛生」(p.30～31)、C-4「日本国憲法と世界人権宣言における健康と人権」(p.31～32)、第2章B-1「看護職は「みんな」の権利をまもる守護神の1人」(p.47～48)</p> <p>看護倫理：第2章B「生命倫理の原則・規則」(p.25～29)、C「インフォームドコンセント」(p.29～35)</p>
		b 患者の権利	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.172～173)</p> <p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章B-3「倫理的配慮と価値判断」(p.220～222)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章F「看護実践における倫理的判断」(p.120～128)</p> <p>在宅看護論：第4章E「対象者(家族も含む)の権利保障」(p.120～129)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第2章B-1「患者の権利」(p.21～22)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 自己決定権と患者の意思	<p>公衆衛生：第2章B「看護職の公的責任と活動対象」(p.47～50)</p> <p>看護倫理：第2章B「生命倫理の原則・規則」(p.25～29)、C「インフォームドコンセント」(p.29～35)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.172～173)、C-2「医療をめぐる倫理原則とケアの倫理」(p.184～189)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章G「意志決定支援」(p.128～135)</p> <p>在宅看護論：第4章E-2「自己決定権」(p.120)、付章B-1「在宅看護の対象者の権利」(p.381～382)</p> <p>総合医療論：第5章D「生命倫理学と臨床倫理学の展開」(p.122～127)</p> <p>臨外看総：第5章A-2「患者の自己決定権とインフォームドコンセント」(p.189)</p> <p>クリティカルケア看護学：第6章A-5「リビングウィルとDNAR・尊厳死」(p.210～211)</p> <p>緩和ケア：第3章B-4「自己決定の自由の実現」(p.47～52)</p>
		d インフォームド・コンセント	<p>看護倫理：第2章B「生命倫理の原則・規則」(p.25～29)、C「インフォームドコンセント」(p.29～35)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.172～173)</p> <p>基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第2章E-1-2「終末期医療の特徴」(p.113～117)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章B-1-3「医療にかかわる対策—健康への多様なニーズへの対応」(p.72～77)</p> <p>在宅看護論：第4章E-2「自己決定権」(p.120)、付章B-1「在宅看護の対象者の権利」(p.381～382)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第3章B-2「インフォームドコンセント」(p.22～25)</p> <p>総合医療論：第5章G「インフォームドコンセントと医療情報の開示」(p.132～138)</p> <p>臨外看総：第5章A-2「患者の自己決定権とインフォームドコンセント」(p.190)、第6章C「インフォームドコンセント」(p.215～217)</p> <p>クリティカルケア看護学：第6章A-3「インフォームドコンセント」(p.208～209)</p> <p>緩和ケア：第4章A-1「基本的コミュニケーション」(p.54～57)</p> <p>看護倫理：第2章C「インフォームドコンセント」(p.29～35)</p>
		e ノーマライゼーション	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章B-1-4「福祉にかかわる対策—地域でのノーマライゼーションの広がり」(p.77～81)、第8章B-2-3「維持期のリハビリテーションと看護」(p.233～234)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第4章C-2-5「リハビリテーション」(p.166～167)、第6章B-5「精神保健福祉の現在と今後」(p.287～288)</p> <p>総合医療論：第3章E「障害者のノーマライゼーションと社会的包摂」(p.85～89)</p> <p>社会保障・社会福祉：第7章B-2-1「ノーマライゼーション」(p.174～175)</p> <p>人間関係論：第11章A「ノーマライゼーションの基本概念」(p.234～237)</p> <p>リハビリテーション看護：第1章A「リハビリテーションの定義と理念」(p.5)</p>
		f 情報管理(個人情報保護)	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章B-2-1「守秘義務の遵守と個人情報保護」(p.174)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 3 章 D-2 「記載・管理における留意点」 (p.258~260)</p> <p>在宅看護論 : 第 4 章 E-3 「個人情報の保護」 (p.121~122)、E-4 「個人情報等の情報の開示」 (p.123)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 G 「情報のマネジメント」 (p.128~136)</p> <p>総合医療論 : 第 5 章 H 「医療情報の開示と診療録」 (p.138~139)</p> <p>看護倫理 : 第 2 章 D 「守秘義務・個人情報保護」 (p.35~37)</p> <p>看護情報学 : 第 8 章 「個人情報の保護」 (p.152~165)</p>
	B 看護倫理	a 看護職の役割	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 A-4 「職業倫理としての看護倫理」 (p.170~172)、C 「看護実践における倫理問題への取り組み」 (p.183~192)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 F 「看護実践における倫理的判断」 (p.120~128)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 1 章 G 「母性看護における倫理」 (p.42~47)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B 「看護職」 (p.143~170)</p> <p>看護倫理 : 第 6 章 「看護倫理とはなにか」 (p.84~103)、第 7 章 「専門職の倫理」 (p.110~125)</p>
		b 看護の倫理綱領	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 B-3 「医療専門職の倫理規定」 (p.176~183)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 F 「看護実践における倫理的判断」 (p.120~128)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-5 「看護職の職業倫理」 (p.162~165)</p> <p>公衆衛生 : 第 2 章 B-2 「万国共通の看護職の公的責任」 (p.48~49)</p> <p>看護倫理 : 第 7 章 「専門職の倫理」 (p.110~125)</p>
5 関係法規	A 保健師助産師看護師法	a 保健師助産師看護師の業務	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 B-2 「各看護職の養成制度と就業状況」 (p.141~145)</p> <p>在宅看護論 : 付章 C-2 「訪問看護に係る法令」 (p.385~386)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-1 「看護職の定義」 (p.153~154)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 A-5 「業務」 (p.29~31)</p> <p>臨外看総 : 第 5 章 A-4 「看護師の業務」 (p.191~194)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 A-5 「業務」 (p.29~31)、A-7 「義務」 (p.32~36)</p> <p>臨外看総 : 第 5 章 A-4-3 「医師の指示があっても行うことができない行為」 (p.193~194)</p>
		b 看護師に禁止されている業務	<p>看護関係法令 : 第 2 章 A-5 「業務」 (p.29~31)、A-7 「義務」 (p.32~36)</p> <p>臨外看総 : 第 5 章 A-4-3 「医師の指示があっても行うことができない行為」 (p.193~194)</p>
		c 秘密の保持(守秘義務)	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 5 章 B-2-1 「守秘義務の遵守と個人情報保護」 (p.174)</p> <p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 3 章 D-2 「記載・管理における留意点」 (p.258~260)</p> <p>在宅看護論 : 第 4 章 E-3 「個人情報の保護」 (p.121~122)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 G-3 「守秘義務」 (p.133)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 A-7 「義務」 (p.32~36)</p> <p>臨外看総 : 第 5 章 A-5-2 「守秘義務」 (p.194~195)</p>
	B 看護師等の人材確保の促進に関する法律	a 基本方針	<p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 4 章 B-3-2 「看護師等の人材確保の促進に関する法律」 (p.157~158)</p> <p>看護関係法令 : 第 2 章 B 「看護師等の人材確保の促進に関する法律」 (p.51~53)</p>
		b 養成制度	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 4 章 A-3-2 「看護婦の人員確保」 (p.134)、B-2 「各看護職の養成制度と就業状況」 (p.141~145)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 就業状況	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第4章 B-2 「各看護職の養成制度と就業状況」 (p.141~145) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第3章 D-3 「労働環境」 (p.110~118)

目標Ⅱ. 看護の対象者及び看護活動の場について基礎的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
6 人間の特性	A 人間と欲求	a 基本的欲求	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3-1 「看護の理論家にみる看護の定義」 (p.9~18)、第2章 A-5-1 「人間のニード(欲求)に関する理論: マズローの欲求段階説」 (p.67) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A-b 「健康上のニーズ」 (p.3~4)
		b 社会的欲求	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3-1 「看護の理論家にみる看護の定義」 (p.9~18)、第2章 A-5-1 「人間のニード(欲求)に関する理論: マズローの欲求段階説」 (p.67) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A-b 「健康上のニーズ」 (p.3~4) 在宅看護論 : 第1章 A-3 「在宅看護に求められていること」 (p.7~8)
	B 患者の特性	a QOL	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-4-1 「健康の概念」 (p.97~98) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-3-2 「クオリティオブライフ(QOL)」 (p.59~60) 在宅看護論 : 第1章 A-4 「あらゆる面から QOL を考える」 (p.8~10) 総合医療論 : 第1章 B-5 「QOL(生活の質)について考える」 (p.23) 社会学 : 第5章 B-4 「健康とクオリティオブライフ(QOL)」 (p.79~80)
		b 患者ニーズ	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-4 「健康の概念と位置づけの変化」 (p.97~100)
		c 健康に対する意識	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-4 「健康の概念と位置づけの変化」 (p.97~100) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第4章 「ヘルスプロモーションと看護」 (p.146~160) 総合医療論 : 第1章 B 「健康とは」 (p.19~23) 社会学 : 第5章 A 「健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり」 (p.74~76)、B 「健康・病気の新しい見方ととらえ方」 (p.76~84)
		d 疾病に対する意識	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 D-4-1 「健康の概念」 (p.97~98) 総合医療論 : 第1章 C 「病の体験」 (p.24~27) 社会学 : 第5章 A 「健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり」 (p.74~76)、B 「健康・病気の新しい見方ととらえ方」 (p.76~84)
		e 疾病・障害の受容	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 A-5-2 「危機理論」 (p.67~69) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第8章 A-2 「障害がある人の障害の認識過程」 (p.225~227) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第1章 B-2 「心理・社会的な問題」 (p.6~7) リハビリテーション看護 : 第2章 B-2 「障害者の体験」 (p.47~57)、C-3-3 「障害受容に対する援助」 (p.73~75)
7 人間の成長と発達	A 胎児期	a 形態的発達	母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第2章 A-2 「胎児の発育とその生理」 (p.52~59)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 先天異常	解剖生理学：第 10 章 C「受精と胎児の発生」(p.496～512) 小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：第 1 章 B「おもな疾患」(p.5～10) 母性看護学 [2] (母性看護学各論)：第 4 章 B-1「新生児の診断」(p.254～267) 病理学：第 8 章「先天異常と遺伝子異常」(p.116～134) 病態生理学：第 1 章 G「先天異常と遺伝子異常」(p.28～31)
		c 胎児期の異常	小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：第 1 章 B-3「胎芽病と胎児病」(p.10) 母性看護学 [2] (母性看護学各論)：第 4 章 B-1「新生児の診断」(p.254～267) 病理学：第 8 章「先天異常と遺伝子異常」(p.116～134) 病態生理学：第 1 章 G「先天異常と遺伝子異常」(p.28～31)
	B 新生児期・乳児期	a 発達の原則	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 2 章「小児の成長・発達」(p.30～50)
		b 身体の発育	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第 2 章 B-1「身体的発育」(p.70～71) 小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 4 章 A-1「形態的特徴」(p.68)、B-1「形態的特徴」(p.85～86)
		c 運動能力の発達	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 4 章 B-4「運動機能」(p.88～89)
		d 栄養	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 3 章「子どもの栄養」(p.52～66) 栄養学：第 8 章 A「乳児期における栄養」(p.153～154)、第 9 章 G-1「治療を要する小児の栄養管理」(p.232～235) 栄養食事療法：第 15 章「小児の栄養食事療法」(p.217～229)
		e 親子関係	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 4 章 A-4-5「愛着形成」(p.84～85)、B-7-1「愛着形成」(p.92) 母性看護学 [1] (母性看護学概論)：第 3 章 C「母性の発達・成熟・継承」(p.130～139) 母性看護学 [2] (母性看護学各論)：第 5 章 C-2「児との関係確立への看護」(p.321～322) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第 2 章 B-4「ポウルビーの愛着理論」(p.76～79)
		f 先天免疫と獲得免疫	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 4 章 A-2-8「免疫」(p.78) 小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：第 6 章 A-1-2「子どもの免疫の特徴」(p.138) 母性看護学 [2] (母性看護学各論)：第 4 章 A-2-8「新生児の免疫」(p.250～251) 病理学：第 4 章 B「免疫と免疫不全」(p.54～60) 微生物学：第 7 章 A「自然免疫のしくみ」(p.98～107)、B「獲得免疫のしくみ」(p.107～124)
	C 幼児期	a 身体の発育	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 5 章 A-1「形態的特徴」(p.100)
		b 運動能力の発達	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 5 章 A-4「運動機能」(p.101)
		c 排泄の自立	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 5 章 A-8-1「日常生活の自立と世話」(p.109～116)
		d 言語発達	小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 5 章 A-6「コミュニケーション機能」(p.103～104)
		e 社会性の発達	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第 2 章 B-2「心理・社会的側面における発達」(p.71～74) 小児看護学 [1] (小児看護学概論)：第 5 章 A-7「情緒・社会的機能」(p.104～108)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		f 基本的な生活習慣の確立	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 5 章 A-8-1 「日常生活の自立と世話」 (p.108~113) 栄養学 : 第 8 章 B-1 「幼児期の特徴と栄養摂取の要点」 (p.153~154) 栄養食事療法 : 第 15 章 A 「小児の栄養管理の基本」 (p.218~221)
	D 学童期	a 運動能力・体力の特徴	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 5 章 B-3 「感覚・運動機能」 (p.118~119)
		b 社会性の発達	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 B-2 「心理・社会的側面における発達」 (p.71~74) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 5 章 B-5 「社会的機能」 (p.120~122)
		c 学習に基づく行動	小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 5 章 B-8 「学童の養育および看護」 (p.124~129)
	E 思春期	a 第二性徴	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-1 「青年期 : 大人になること」 (p.9~17) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 6 章 2 「身体生理の特徴」 (p.133~135) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 B-1-1 「身体的特徴」 (p.177~179) 解剖生理学 : 第 10 章 D-1-3 「思春期における性成熟」 (p.514~516)
		b アイデンティティの確立	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 B-2 「心理・社会的側面における発達」 (p.71~74) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-1 「青年期 : 大人になること」 (p.9~17) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 6 章 3-3 「自我発達」 (p.136~137) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 B-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.180~184) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第 2 章 B-2-6 「アイデンティティを求めるたたかいとモラトリアム」 (p.67~68)
		c 親からの自立	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-1 「青年期 : 大人になること」 (p.9~17) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 6 章 3-4 「社会性の発達」 (p.137~138) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 B-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.180~184)
		d 異性への関心	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-1 「青年期 : 大人になること」 (p.9~17) 小児看護学 [1] (小児看護学概論) : 第 6 章 3-4 「社会性の発達」 (p.137~138)、3-5 「性的傾向」 (p.138~139) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 B-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.180~184)
	F 成人期	a 社会的責任と役割	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 B-2-2 「成人期の発達」 (p.74~75) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-2 「壮年期・中年期 : 大人であること」 (p.17~26) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 5 章 C-2 「心理・社会的特徴」 (p.198~204)
		b 生殖機能の成熟と衰退	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-2 「壮年期・中年期 : 大人であること」 (p.17~26)、A-2-3 「向老期 : 熟年から人生の有終へー老年期への移行」 (p.26~27) 母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 6 章 D-1 「身体的特徴」 (p.211~214)
		c 基礎代謝の変化	成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 1 章 A-2-2 「壮年期・中年期 : 大人であること」 (p.17~26)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
	G 老年期	a 運動能力・体力の変化	<p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第6章 D-1 「身体的特徴」 (p.211~214)</p> <p>栄養学 : 第4章 D 「エネルギー消費」 (p.80~88)</p> <p>老年看護学 : 第1章 B-2 「身体的側面の変化」 (p.8~11)</p> <p>老年看護 病態・疾患論 : 第1章 F 「運動機能の老化」 (p.32~34)</p>
		b 知覚・感覚の変化	<p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第6章 E-1-1 「身体的特徴」 (p.226~229)</p> <p>老年看護学 : 第4章 A-3 「視聴覚とその他の感覚」 (p.94~99)</p> <p>老年看護 病態・疾患論 : 第1章 B 「認知・知覚機能の老化」 (p.20~26)</p>
		c 認知能力の変化	<p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第6章 E-1-1 「身体的特徴」 (p.226~229)</p> <p>老年看護学 : 第1章 B-3 「心理的側面の変化」 (p.11~12)</p> <p>老年看護 病態・疾患論 : 第1章 B 「認知・知覚機能の老化」 (p.20~26)</p>
		d 心理社会的変化	<p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第6章 E-1-1 「身体的特徴」 (p.226~229)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-2-3 「老年期の発達」 (p.71~74)</p> <p>老年看護学 : 第1章 C 「老いを生きるということ」 (p.14~20)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第6章 E-1-2 「心理・社会的特徴」 (p.230~232)</p>
		e 個性・多様性	<p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第2章 B-2-8 「老年期」 (p.69)</p> <p>老年看護学 : 第1章 C-3 「老いを生きる人々へのまなざし」 (p.19~20)</p>
8 患者と家族	A 家族の機能	a 家族関係	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-2-1 「看護の対象としての家族」 (p.77~78)、第3章 E-2-6 「家族の変化」 (p.114)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B-3 「家族からとらえる大人」 (p.34~35)、第3章 H 「家族支援」 (p.136~140)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第3章 B-2 「家族の発達段階と家族看護」 (p.126~129)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第5章 「患者家族と在宅ケア」 (p.138~166)</p> <p>救急看護学 : 第2章 「救急患者家族の特徴」 (p.57~61)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第2章 B-3 「家族の体験」 (p.58~60)、C-3-6 「家族援助」 (p.81~83)</p>
		b 家族構成員	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-2-6 「家族の変化」 (p.114)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B-3 「家族からとらえる大人」 (p.34~35)、第3章 H 「家族支援」 (p.136~140)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 3 「家族・個人の変化」 (p.37~39)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第1章 B 「家族の種類」 (p.4)</p>
	B 家族形態の変化	a 家族の多様性	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-2-1 「看護の対象としての家族」 (p.77~78)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第2章 A-3 「家族・個人の変化」 (p.37~39)</p> <p>人間関係論 : 第9章 A-1 「家族機能と現代家族の動向」 (p.187~190)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第1章 「家族とは」 (p.2~20)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 構成員の変化	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 3 章 E-2-6 「家族の変化」 (p.114)</p> <p>老年看護学 : 第 2 章 A-2 「高齢者のいる世帯」 (p.25～26)</p> <p>公衆衛生 : 第 7 章 B 「成人保健」 (p.172～175)、B-7 「家族のライフステージに応じた健康課題と健康づくり」 (p.189～191)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 2 章 A-3 「家族・個人の変化」 (p.37～39)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第 1 章 「家族とは」 (p.2～20)</p>
		c 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 2 章 C-2-1 「看護の対象としての家族」 (p.77～78)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 H 「家族支援」 (p.136～140)</p> <p>在宅看護論 : 第 2 章 B 「家族」 (p.31～37)</p> <p>人間関係論 : 第 9 章 「家族の人間関係と看護師のかかわり」 (p.186～210)</p> <p>家族論・家族関係論 : 第 5 章 「患者家族と在宅ケア」 (p.138～166)</p> <p>救急看護学 : 第 2 章 「救急患者家族の特徴」 (p.57～61)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第 2 章 B-3 「家族の体験」 (p.58～60)、C-3-6 「家族援助」 (p.81～83)</p>
9 主な看護活動展開の場と看護の機能	A 医療提供施設	a 病院	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.199～204)</p> <p>総合医療論 : 第 3 章 A-2 「診療所と病院」 (p.60～65)</p> <p>看護関係法令 : 第 3 章 A-3 「医療法」 (p.61～84)</p>
		b 診療所	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.199～204)</p> <p>総合医療論 : 第 3 章 A-2 「診療所と病院」 (p.60～65)</p> <p>看護関係法令 : 第 3 章 A-3 「医療法」 (p.61～84)</p>
		c 助産所	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.199～204)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 2 章 A-5-1 「母性看護の場」 (p.79)</p> <p>看護関係法令 : 第 3 章 A-3 「医療法」 (p.61～84)</p>
		d 介護老人保健施設	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.199～204)</p> <p>老年看護学 : 第 2 章 B-2-2 「介護保険制度の整備」 (p.39～48)</p> <p>在宅看護論 : 第 3 章 A-3-2 「介護サービスの利用」 (p.45～49)、第 4 章 B-2-5 「社会資源に対するアセスメント」 (p.80～82)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 4 章 B-5-7 「指定居宅サービス事業者と介護保険施設」 (p.100～102)</p> <p>看護関係法令 : 第 7 章 A-6 「介護保険法」 (p.215～222)</p>
	B 保健所・市町村における看護活動	a 保健所の業務	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.204～211)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 2 章 A-5-1 「母性看護の場」 (p.79)</p> <p>公衆衛生 : 第 3 章 B-3-1 「保健所」 (p.72～73)</p> <p>看護関係法令 : 第 4 章 A-1-3 「保健所」 (p.131～133)</p>
		b 市町村の業務	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.204～211)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 2 章 A-5-1 「母性看護の場」 (p.79)</p> <p>公衆衛生 : 第 3 章 B-3-2 「市町村保健センター」 (p.73～74)</p> <p>看護関係法令 : 第 4 章 A-1-4 「市町村保健センター」 (p.133)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
C	地域・在宅での看護	a 居宅	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.204~211)</p> <p>基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第 1 章 C-3 「在宅における看護」 (p.51~56)</p> <p>在宅看護論 : 第 1 章 A-1 「在宅看護が提供される場」 (p.5~6)</p>
		b 訪問看護ステーション	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.204~211)</p> <p>老年看護学 : 第 2 章 B-2 「介護保険制度の整備」 (p.39~48)</p> <p>在宅看護論 : 第 3 章 A-4 「訪問看護制度」 (p.50~58)</p>
		c 介護保険施設	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.204~211)</p> <p>在宅看護論 : 第 3 章 A-3-2 「介護サービスの利用」 (p.45~49)、第 4 章 B-2-5 「社会資源に対するアセスメント」 (p.80~82)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 4 章 B-5-7 「指定居宅サービス事業者と介護保険施設」 (p.100~102)</p> <p>看護関係法令 : 第 7 章 A-6-3 「保険給付」 (p.216~219)</p>
		d 地域包括支援センター	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-2 「地域における看護」 (p.204~211)</p> <p>老年看護学 : 第 2 章 B-2-2 「介護保険制度の整備」 (p.39~48)</p> <p>在宅看護論 : 第 3 章 A-3-4 「地域包括ケアシステム」 (p.47~50)</p> <p>公衆衛生 : 第 7 章 C-6 「地域の特定に応じた地域包括ケアシステム」 (p.197~200)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 4 章 B-5-9 「地域支援事業」 (p.103~104)</p>
D	看護管理	a 看護体制	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 D 「看護サービスの管理」 (p.237~257)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 C 「看護サービス提供のしくみづくり」 (p.87~97)</p>
		b 看護チーム	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C-1 「担当看護師間の情報伝達・共有」 (p.42~47)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 3 章 C 「看護サービス提供のしくみづくり」 (p.87~97)</p>
		c 安全管理 (セーフティマネジメント)	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 E 「医療安全と医療の質保証」 (p.257~268)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 C 「安全管理」 (p.25~50)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 7 章 A 「組織としての医療安全対策」 (p.216~224)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 7 章 B-1 「リスクマネジメント」 (p.229~231)</p>
		d インシデントレポート	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 E-2-1 「アクシデントとインシデント」 (p.259)、E-5 「医療事故防止対策としてのインシデントレポートの活用」 (p.265~267)</p> <p>老年看護学 : 第 8 章 A-1 「高齢者と医療事故」 (p.372~375)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 C-2 「医療事故対策」 (p.31~50)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 7 章 A-3-3 「事故やヒヤリ・ハット報告によるリスクの把握-分析-対策体制の確立」 (p.219~224)</p>
E	関連職種との連携	a 関連する職種	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C 「看護の継続性と情報共有」 (p.40~53)、第 6 章 B-1-1 「看護サービス提供の担い手」 (p.197)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b チーム医療	<p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 2 章 A-5-2 「母性看護に携わる職種」 (p.80)</p> <p>在宅看護論 : 第 4 章 C 「他職種との連携」 (p.93~102)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 D-4 「他職種との連携・協働」 (p.54~60)</p> <p>看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学) : 第 2 章 B-5 「災害対応にかかわる職種間・組織間連携」 (p.45~48)</p> <p>総合医療論 : 第 7 章 B-4 「チーム医療・チームケア」 (p.173~175)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 8 章 H 「連携の場面とその方法」 (p.252~256)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 6 章 B-4 「クリティカルケア看護にかかわる他職種との連携」 (p.218~221)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第 1 章 E-2 「連携職種」 (p.29~32)、3 「多職種連携のあり方」 (p.32~36)</p> <p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C 「看護の継続性と情報共有」 (p.40~53)、第 6 章 B-1 「看護サービスの担い手とチーム医療」 (p.197~199)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 D 「チームアプローチ」 (p.106~110)、第 9 章 D-3-7 「チームアプローチ」 (p.254)、第 13 章 B-2 「退院支援におけるチームアプローチと看護師の役割」 (p.358)</p> <p>老年看護 病態・疾患論 : 終章 E 「高齢者医療におけるチーム医療」 (p.295~298)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第 2 章 A-5-2 「母性看護に携わる職種」 (p.80~81)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 D 「チーム医療」 (p.50~60)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 6 章 B 「事故防止のための医療職間のコミュニケーション」 (p.205~210)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 8 章 H 「連携の場面とその方法」 (p.252~256)</p> <p>人間関係論 : 第 6 章 「保健医療チームの人間関係」 (p.124~138)</p> <p>臨外看総 : 第 6 章 B 「チーム医療と看護師の役割」 (p.213~215)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 6 章 B 「クリティカルケア看護とチーム医療」 (p.215~221)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第 1 章 E-2 「連携職種」 (p.29~32)、3 「多職種連携のあり方」 (p.32~36)</p> <p>緩和ケア : 第 2 章 「チーム医療」 (p.14~32)</p>
		c 看護の役割	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C 「看護の継続性と情報共有」 (p.40~53)、第 6 章 B-1 「看護サービスの担い手とチーム医療」 (p.197~199)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 D 「チームアプローチ」 (p.106~110)、第 9 章 D-3-7 「チームアプローチ」 (p.254)、第 13 章 B-2 「退院支援におけるチームアプローチと看護師の役割」 (p.358)</p> <p>在宅看護論 : 第 1 章 B 「在宅看護における看護師の役割と機能」 (p.11~18)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第 2 章 D-3 「看護職の責任と役割」 (p.54)</p> <p>社会保障・社会福祉 : 第 8 章 H 「連携の場面とその方法」 (p.252~256)</p> <p>リハビリテーション看護 : 第 1 章 E-2 「連携職種」 (p.29~32)、3 「多職種連携のあり方」 (p.32~36)</p>

目標Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能及び健康障害と回復について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
10 生命活動	A 人体の構造と機能	a 内部環境の恒常性 (ホメオスタシス)	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2 「看護の使命と結びつくホメオスタシス」 (p.59~60) 解剖生理学 : 第1章 C-3-2 「内部環境とホメオスタシス」 (p.50~52)、第6章 「内臓機能の調節」 (p.249~295)
		b 血液・水・電解質	成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第2章 「血液の生理と造血のしくみ」 (p.14~26) 解剖生理学 : 第1章 C-3 「体液とホメオスタシス」 (p.48~52)、第3章 C 「血液」 (p.131~155) 生化学 : 第6章 「水と無機質」 (p.72~79)、第7章 A 「血液」 (p.82~93) 病態生理学 : 第4章 A 「体液・電解質の正常性を保つしくみ」 (p.66~69)、第5章 A 「血液の正常性を保つしくみ」 (p.82~90)
		c 体温	解剖生理学 : 第9章 C 「体温とその調節」 (p.470~477) 病態生理学 : 第2章 B 「体温調節のしくみとその異常」 (p.43~46)
		d 感染防御と免疫反応	成人看護学 [11] (アレルギー) : 第2章 A 「免疫反応と病気」 (p.12~13) 成人看護学 [11] (感染症) : 第2章 B 「感染が成立する条件」 (p.193~198) 解剖生理学 : 第9章 B 「生体の防御機構」 (p.458~470) 病理学 : 第5章 A 「感染と宿主の防御機構」 (p.76~81) 病態生理学 : 第1章 E-3 「生体の防御機構」 (p.22~23)、第3章 A 「免疫による防御の正常性を確保するしくみ」 (p.48~52) 微生物学 : 第7章 「感染に対する生体防御機構」 (p.98~132)
		e 循環器系	成人看護学 [3] (循環器) : 第2章 A 「心臓の構造と機能」 (p.16~23)、B 「血管の構造と機能」 (p.23~26)、C 「循環の調節」 (p.26~30) 解剖生理学 : 第4章 「血液の循環とその調節」 (p.157~218) 病態生理学 : 第6章 A 「循環器の正常性を保つしくみ」 (p.102~108)
		f 呼吸器系	成人看護学 [2] (呼吸器) : 第2章 「呼吸器系の構造と機能」 (p.20~39) 解剖生理学 : 第3章 A 「呼吸器の構造」 (p.99~110)、B 「呼吸」 (p.110~131) 病態生理学 : 第7章 A 「呼吸器の機能の正常性を保つしくみ」 (p.130~134)
		g 神経系	成人看護学 [7] (脳・神経) : 第2章 「脳・神経系の構造と機能」 (p.30~62) 解剖生理学 : 第1章 B-5-4 「神経組織」 (p.34~36)、第6章 A 「自律神経による調節」 (p.252~260)、第8章 「情報の受容と処理」 (p.373~450) 病態生理学 : 第12章 A 「脳・神経機能の正常性を保つしくみ」 (p.246~252)
		h 消化器系	成人看護学 [5] (消化器) : 第2章 「消化器の構造と機能」 (p.20~43) 解剖生理学 : 第2章 「栄養の消化と吸収」 (p.53~96) 病態生理学 : 第8章 A 「消化管の機能の正常性を保つしくみ」 (p.152~155)
		i 泌尿器系	成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第2章 「腎・泌尿器の構造と機能」 (p.18~38) 解剖生理学 : 第5章 「体液の調節と尿の生成」 (p.219~248) 病態生理学 : 第9章 A 「腎・泌尿器の正常性を保つしくみ」 (p.152~155)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		j 代謝・内分泌系	<p>成人看護学 [6] (内分泌・代謝) : 第2章「内分泌・代謝器官の構造と機能」(p.16~47)</p> <p>解剖生理学 : 第1章 B-2-2「エネルギーの変換とATP産生」(p.16~18)、第6章「内臓機能の調節」(p.250~295)</p> <p>生化学 : 第8章「ホルモンと生理活性物質」(p.98~120)</p> <p>病理学 : 第15章 A「ホルモンとホメオスタシス」(p.276)</p> <p>病態生理学 : 第10章 A「内分泌機能の正常性を保つしくみ」(p.210~215)、C「代謝機能の正常性を保つしくみ」(p.224~226)</p>
		k 骨・筋系	<p>成人看護学 [10] (運動器) : 第2章「運動器の構造と機能」(p.26~46)</p> <p>解剖生理学 : 第7章「からだの支持と運動」(p.297~372)</p> <p>病態生理学 : 第12章 C-1「筋収縮の正常性を保つしくみ」(p.264)</p>
		l 性と生殖系	<p>成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第2章 E「男性生殖器の構造と機能」(p.35~39)</p> <p>成人看護学 [9] (女性生殖器) : 第2章「女性生殖器の構造と機能」(p.22~38)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第3章 A「女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化」(p.91~118)</p> <p>解剖生理学 : 第10章 A「男性生殖器」(p.481~486)、B「女性生殖器」(p.486~496)</p> <p>病態生理学 : 第11章 A「生殖の正常性を確保するしくみ」(p.234~237)</p>
		m 遺伝	<p>解剖生理学 : 第10章 C-1-1「生殖細胞」(p.496~500)</p> <p>生化学 : 第18章「遺伝情報」(p.268~290)</p> <p>病理学 : 第8章 A「遺伝の生物学」(p.116~117)</p>
	B 正常な妊娠・分娩・産褥	a 妊娠の成立	<p>成人看護学 [9] (女性生殖器) : 第2章 B-5「妊娠の成立」(p.34~36)</p> <p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第3章 B-2-1「妊娠の成立」(p.101~111)</p> <p>母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第2章 A-1「妊娠の生理」(p.47~51)</p>
		b 妊娠の経過	<p>母性看護学 [1] (母性看護学概論) : 第3章 B-2-1「妊娠の成立」(p.101~111)</p> <p>母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第2章 A「妊娠期の身体的特性」、B「妊娠期の心理・社会的特性」、C「妊婦と胎児のアセスメント」(p.46~109)</p>
		c 分娩の経過	<p>母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第3章 A「分娩の要素」、B「分娩の経過」(p.162~187)</p>
		d 産褥の経過	<p>母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第5章 A-1「産褥期の身体的変化」(p.290~293)</p>
	C 人間の死	a 死の三徴候	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第9章 C-1-2「死の判定」(p.243~244)</p> <p>病理学 : 第7章 C-1-1「死の3徴候」(p.111)</p> <p>病態生理学 : 第1章 I-2「死の定義」(p.34~35)</p> <p>救急看護学 : 第5章 O「脳死状態への対応」(p.276)</p>
		b 死亡判定	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第9章 C-1-2「死の判定」(p.243~244)</p> <p>解剖生理学 : 第8章 D-5「中枢神経系の障害」(p.416~419)</p> <p>病理学 : 第7章 C「個体の死と終末期医療」(p.110~114)</p> <p>病態生理学 : 第1章 I-2「死の定義」(p.34~35)</p> <p>臨外看護学 : 第5章 B-2-1「人の死の定義」(p.204~205)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		c 脳死	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 9 章 C-1-2 「死の判定」 (p.243~244)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 3 章 B-1-4 「遷延性の意識障害と脳死」 (p.70~72)</p> <p>病理学 : 第 7 章 C-2 「脳死と植物状態」 (p.112)</p> <p>病態生理学 : 第 1 章 I-2 「死の定義」 (p.34~35)、第 12 章 B-1-2 「脳死と植物状態」 (p.253~254)</p> <p>総合医療論 : 第 5 章 C-2 「死の判定-脳死と臓器移植」 (p.120~122)</p> <p>臨外看総 : 第 5 章 B-2-2 「脳死と臓器移植」 (p.205~206)</p> <p>救急看護学 : 第 5 章 O 「脳死状態への対応」 (p.276~282)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 6 章 A-6 「臓器移植と脳死」 (p.212~213)</p>
		d 死の受容	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 A-5-2 「危機理論」 (p.67~69)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 9 章 「人生の最期のときを支える看護」 (p.238~254)</p> <p>在宅看護論 : 第 5 章 B-6 「在宅における終末期看護」 (p.183~191)</p> <p>病理学 : 第 7 章 C-3 「尊厳死と緩和医療」 (p.113~114)</p> <p>救急看護学 : 第 2 章 B-2-4 「悲嘆反応」 (p.59~60)</p> <p>緩和ケア : 第 8 章 A-2 「わるい知らせに対する心理的反応」 (p.200~201)、A-3 「死にゆく患者の心理」 (p.201~202)</p>
11 病態と看護	A 症状と看護	a 意識障害	<p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 3 章 B-1 「意識障害」 (p.66~72)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第 4 章 B-2-5 「意識の障害」 (p.149~152)</p> <p>病態生理学 : 第 12 章 B-1-1 「意識障害」 (p.253)</p> <p>救急看護学 : 第 5 章 B 「意識障害への対応」 (p.176~182)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 3 章 E-1-1 「意識障害」 (p.71)</p>
		b ショック	<p>成人看護学 [3] (循環器) : 第 3 章 H 「ショック」 (p.44~46)</p> <p>成人看護学 [9] (女性生殖器) : 第 3 章 1 「ショック」 (p.40~41)、第 6 章 C-1 「ショック状態患者の看護」 (p.208~211)</p> <p>病理学 : 第 3 章 I 「ショック」 (p.42)</p> <p>病態生理学 : 第 6 章 B-2 「血圧調節・末梢循環の障害」 (p.124)</p> <p>臨外看総 : 第 1 章 F-2 「ショック」 (p.49~52)</p> <p>救急看護学 : 第 5 章 D 「ショック・循環障害への対応」 (p.192~199)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 3 章 D 「循環障害とケア」 (p.63~70)</p>
		c 高体温・低体温	<p>成人看護学 [11] (感染症) : 第 2 章 D-7 「発熱」 (p.205)、第 6 章 B-1 「発熱」 (p.330~331)</p> <p>解剖生理学 : 第 9 章 C-4 「発熱」 (p.474~476)、C-5 「高体温と低体温」 (p.476~477)</p> <p>病態生理学 : 第 2 章 B-2 「体温調節機能の正常性の破綻」 (p.43~46)</p> <p>救急看護学 : 第 5 章 H 「体温異常への対応」 (p.224~229)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 5 章 E 「体温管理」 (p.170~173)</p>
		d 脱水	<p>成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第 3 章 D 「脱水」 (p.51~52)</p> <p>老年看護学 : 第 4 章 B-4 「脱水」 (p.125~129)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		e 黄疸	<p>病態生理学：第4章 B-1-2「脱水症」(p.70~72) 救急看護学：第5章 G-1「脱水症とは」(p.217)、G-2「脱水症時の救急処置と検査」(p.217~219)、G-3「脱水症患者の初療時の看護」(p.219) 成人看護学 [5] (消化器)：第6章 B-10「黄疸のある患者の看護」(p.294~296) 病理学：第6章 D-4「黄疸」(p.102~103) 病態生理学：第8章 E-3-2「胆道の閉塞」(p.179~180) 臨外看各：第3章 I-D-2「黄疸」(p.249~251) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章 B-9「頭痛」(p.96~98)</p>
		f 頭痛	<p>クリティカルケア看護学：第3章 E-1-5「頭痛」(p.74) 成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章 A-1「喀痰」(p.42~44)、A-3「咳嗽」(p.46~49) 病態生理学：第7章 A-3-4「呼吸器系の防御機構」(p.134)</p>
		g 咳嗽・喀痰	<p>緩和ケア：第7章 B-10「咳嗽」(p.170~172) 成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章 A-2「血痰・咯血」(p.44~46) 病態生理学：第8章 B-3「消化・吸収機能の障害と腸管機能の障害」(p.164)</p>
		h 吐血・咯血	<p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章 B-1「チアノーゼ」(p.57~58) 成人看護学 [3] (循環器)：第3章 E「チアノーゼ」(p.39~40) 病理学：第3章 C-2-2「うっ血による変化」(p.31) 病態生理学：第6章 B-1-3「心房と心室の機能障害」(p.118)</p>
		i チアノーゼ	<p>救急看護学：第4章 E-2-3「チアノーゼ」(p.128) 成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章 A-5「呼吸困難」(p.53~56) 成人看護学 [3] (循環器)：第3章 C「呼吸困難」(p.35~37) 成人看護学 [11] (アレルギー)：第5章 A-1「呼吸器症状がある患者の看護」(p.44~46) 病態生理学：第7章 B-2「換気のしくみの破綻」(p.140~145) 救急看護学：第5章 C「呼吸障害への対応」(p.183~192) クリティカルケア看護学：第3章 C-1「呼吸不全」(p.56)</p>
		j 呼吸困難	<p>緩和ケア：第7章 B-9「呼吸困難」(p.167~170) 成人看護学 [2] (呼吸器)：第3章 A-4「胸痛」(p.49~53) 成人看護学 [3] (循環器)：第3章 A「胸痛」(p.32~33) 病態生理学：第6章 B-1「心臓の拍出機能の正常性の破綻」(p.108~123) 救急看護学：第4章 F-2-4「胸部症状」(p.134) 成人看護学 [3] (循環器)：第5章 D「不整脈」(p.171~198) 病態生理学：第6章 B-1-2「心筋収縮の指令の障害」(p.111~115) 救急看護学：第4章 F「循環器系」(p.129~134)</p>
		k 胸痛	<p>成人看護学 [5] (消化器)：第6章 B-4「腹痛のある患者の看護」(p.281~283)、B-8「腹部膨満のある患者の看護」(p.289~292) 救急看護学：第4章 G「消化器系」(p.135~141)、第5章 E「急性腹症への対応」(p.199~206)</p>
		l 不整脈	<p>成人看護学 [5] (消化器)：第6章 B-3「吐きけ・嘔吐のある患者の看護」(p.279~281)</p>
		m 腹痛・腹部膨満	
		n 嘔気・嘔吐	

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		o 下痢	<p>病態生理学：第8章B「消化管の機能の正常性の破綻」(p.159)</p> <p>緩和ケア：第7章B-4「悪心・嘔吐」(p.156～159)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器)：第6章B-6「下痢のある患者の看護」(p.286～287)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症)：第6章B-3「下痢」(p.332～333)</p> <p>栄養学：第9章F-2-b-1「下痢」(p.210)</p> <p>病態生理学：第8章B-3-3「腸管内水分量の破綻」(p.164～167)</p>
		p 便秘	<p>微生物学：第8章A-1「食中毒」(p.134～136)</p> <p>緩和ケア：第7章B-7「下痢」(p.163～164)</p> <p>栄養食事療法：第6章L「下痢」(p.93～95)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章A「自然排尿および自然排便の介助」(p.53～66)、C「排便を促す援助」(p.73～78)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器)：第6章B-7「便秘のある患者の看護」(p.287～289)</p> <p>栄養学：第9章F-2-b-2「便秘」(p.210～211)</p> <p>病態生理学：第8章B-3-2「腸管運動の破綻」(p.163～164)</p>
		q 下血	<p>緩和ケア：第7章B-6「便秘」(p.161～163)</p> <p>栄養食事療法：第6章K「便秘」(p.91～93)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器)：第3章E「吐血・下血」(p.53～55)</p> <p>病態生理学：第8章「NOTE 吐血と下血・血便」(p.164～165)</p> <p>救急看護学：第5章E-1-4「急性腹症の症状—吐血・下血」(p.201)</p>
		r 乏尿・無尿・頻尿	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章A「自然排尿および自然排便の介助」(p.53～66)、B「導尿」(p.67～73)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章B-5-3「排泄障害」(p.89～90)</p> <p>成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第3章A-1「尿量の異常」(p.40～41)、B-1「蓄尿症状」(p.46～47)</p> <p>病態生理学：第9章C「尿をたくわえ排泄するしくみの破綻」(p.204～207)</p> <p>救急看護学：第5章F-4「尿閉とは」(p.209)、F-5「尿閉時の救急処置と検査」(p.209～210)、F-6「尿閉のある患者の初療時の看護」(p.210～211)</p>
		s 浮腫	<p>緩和ケア：第7章B-13「下部尿路機能障害」(p.176～178)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器)：第3章D「浮腫」(p.37～39)</p> <p>成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第3章C「浮腫」(p.49～51)</p> <p>成人看護学 [9] (女性生殖器)：第3章-10「リンパ浮腫」(p.47)</p> <p>老年看護学：第4章B-6「浮腫」(p.131～134)</p> <p>病理学：第3章B「浮腫(水腫)」(p.29～30)</p> <p>病態生理学：第1章B-3「微小循環と浮腫・胸水・腹水」(p.7～11)</p> <p>救急看護学：第5章G-4「浮腫とは」(p.219～220)、G-5「浮腫時の救急処置と検査」(p.220)、G-6「浮腫のある患者の初療時の看護」(p.221)</p>
		t 貧血	<p>緩和ケア：第7章B-18「リンパ浮腫」(p.187～192)</p> <p>成人看護学 [4] (血液・造血器)：第3章A-1「貧血」(p.28～29)、C-1「貧血」(p.35～37)、第5章A-1「貧血のある患者の看護」(p.128～132)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		u 睡眠障害	<p>栄養学：第9章 F-5-1「鉄欠乏性貧血」(p.227)、F-5-2「巨赤芽球性貧血」(p.227~228)</p> <p>病理学：第11章 A-2「貧血」(p.190~191)</p> <p>病態生理学：第5章 B「血液の正常性の破綻」(p.90~94)</p> <p>栄養食事療法：第9章 A「鉄欠乏性貧血」(p.148~152)、B「巨赤芽球性貧血」(p.152~154)</p> <p>臨床検査：第4章 B「血球検査」(p.91~99)、D「溶血性貧血の検査」(p.111)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 B「睡眠と休息の援助」(p.116~126)</p> <p>成人看護学 [2] (呼吸器)：第5章 F-2「睡眠時無呼吸症候群」(p.196~197)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器)：第5章コラム「閉塞性睡眠時無呼吸症候群」(p.167)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第4章 C-5-2「睡眠障害(精神的要因によるもの)」(p.191~194)</p> <p>病態生理学：第7章 B-5「呼吸調節の破綻」(p.149)</p> <p>緩和ケア：第8章 B-4「不眠」(p.226~233)</p>
		v 感覚の異常	<p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章 B-4「感覚機能障害」(p.84~86)</p> <p>成人看護学 [14] (耳鼻咽喉)：第3章 A-1「難聴」(p.40~42)、B-3「嗅覚障害」(p.46)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第4章 B-2-4「知覚の障害—幻覚を中心に」(p.147~149)</p> <p>病態生理学：第13章 A-2「視機能の正常性の破綻」(p.270~273)、B-2「聴覚機能の正常性の破綻」(p.275~277)</p>
		w 運動の異常(麻痺・失調)	<p>リハビリテーション看護：第6章「感覚器系の障害とリハビリテーション看護」(p.304~334)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章 B-3「運動機能障害」(p.78~84)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器)：第3章 D「神経の障害」(p.60~62)</p> <p>病態生理学：第12章 B-3「運動制御の正常性の破綻」(p.262~265)、C-2「筋収縮の正常性の破綻」(p.266~267)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 E-1-3「運動麻痺」(p.73)</p>
		x けいれん	<p>リハビリテーション看護：第3章 B-4「障害とリハビリテーション看護」(p.96~115)、第4章 A-5-2「運動障害」(p.148~164)、B-5-1「運動障害」(p.201~218)、C-5-1「運動麻痺」(p.231~244)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第3章 B-3-4「けいれん」(p.82~83)、第5章 H「てんかん」(p.215~220)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第4章 C-8「てんかん」(p.212~215)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 E-1-3「けいれん」(p.72)</p>
	B 主要疾患と看護	a 生活習慣病	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A-2-3「生活習慣病」(p.51~53)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器)：第5章 A「虚血性心疾患」(p.120~149)、C「血圧異常」(p.161~171)、第6章 E-3「血圧異常患者の看護」(p.328~330)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b がん	<p>成人看護学 [6] (内分泌・代謝) : 第 5 章 B-1 「糖尿病」 (p.132~164)、B-2 「脂質異常症」 (p.165~174)、B-3 「肥満症とメタボリックシンドローム」 (p.175~180)、B-4 「尿酸代謝異常」 (p.180~184)、第 6 章 B-1 「糖尿病患者の看護」 (p.236~271)、B-2 「脂質異常症患者の看護」 (p.271~275)、B-3 「肥満症患者の看護」 (p.275~278)、B-5 「尿酸代謝異常患者の看護」 (p.281~282)</p> <p>生化学 : 第 17 章 B 「糖尿病」 (p.254~257)、C 「脂質異常症」 (p.258~260)</p> <p>栄養学 : 第 9 章 F 「高血圧症」 (p.204~205)、「虚血性心疾患」 (p.206)、「脳血管障害」 (p.207~208)、「メタボリックシンドローム」 (p.216)、「糖尿病」 (p.218~220)、第 10 章 B 「生活習慣病の予防」 (p.247~248)</p> <p>病理学 : 第 3 章 J 「高血圧症」 (p.44~46)、第 6 章 A 「脂質代謝障害」 (p.94~97)、C 「糖尿病」 (p.98~100)、第 10 章 B-5 「虚血性心疾患」 (p.176~182)、第 16 章 A-2 「脳・神経系の循環障害(脳血管障害)」 (p.288~293)</p> <p>病態生理学 : 第 6 章 B-2-1 「血圧の異常」 (p.123~125)、第 10 章 D-1 「糖代謝の異常」 (p.227~230)、第 12 章 B-2-1 「脳血管障害」 (p.258~260)</p> <p>公衆衛生 : 第 7 章 B-4 「生活習慣病対策」 (p.181~184)</p> <p>臨外看各 : 第 2 章 I-A-3-4 「虚血性心疾患」 (p.97~100)、第 4 章 I-A-3 「脳血管障害」 (p.368~373)</p> <p>栄養食事療法 : 第 5 章 「循環器疾患患者の栄養食事療法」 (p.58~70)、第 8 章 A 「肥満」 (p.130~133)、D 「糖尿病」 (p.138~141)、E 「脂質異常症」 (p.141~144)、F 「高尿酸血症・通風」 (p.144~146)</p> <p>臨床検査 : 第 5 章 C 「糖代謝の検査」 (p.128~135)、D 「脂質代謝の検査」 (p.135~140)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 2 章 B-1-2 「保健にかかわる対策-健やかな生活をはぐくむために」 (p.63~72)、第 14 章 「がんとの共生を促す看護技術」 (p.392~402)</p> <p>病理学 : 第 9 章 「腫瘍」 (p.136~166)</p> <p>病態生理学 : 第 1 章 F 「腫瘍」 (p.23~28)</p> <p>公衆衛生 : 第 7 章 B-5 「がん対策」 (p.184~186)</p> <p>看護関係法令 : 第 4 章 B-5 「がん対策基本法」 (p.147~148)</p> <p>臨外看総 : 第 1 章 E 「腫瘍」 (p.36~45)</p> <p>がん看護学 : 第 5 章 「がん治療に対する看護」 (p.160~229)</p>
		c 感染症	<p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 5 章 C-7 「感染症」 (p.178~180)</p> <p>成人看護学 [2] (呼吸器) : 第 5 章 A 「感染症」 (p.138~164)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器) : 第 5 章 C-2-1 「感染性腸炎」 (p.175~176)、D-1 「肝炎」 (p.209~228)、第 6 章 E-4-1 「急性肝炎患者の看護」 (p.390~395)、E-4-2 「慢性肝炎患者の看護」 (p.395~397)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症) : 第 5 章 「疾患の理解」 (p.249~300)、第 6 章 「患者の看護」 (p.301~340)</p> <p>成人看護学 [12] (皮膚) : 第 5 章 F 「感染症」 (p.132~155)</p> <p>小児看護学 [2] (小児臨床看護各論) : 第 6 章 「感染症と看護」 (p.138~171)</p> <p>病理学 : 第 5 章 「感染症」 (p.76~92)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 外因性障害	<p>病態生理学：第1章 E-3-2「病原体と抗生物質」(p.22～23)、第7章 B-1-1「気道と肺の防御機構の破綻」(p.135～138)、第8章 D-1-2「肝炎による正常性の破綻」(p.172)、第11章 B-2-1「感染防御機構の破綻」(p.238～239)</p> <p>微生物学：第3部「おもな病原微生物」(p.213～360)</p> <p>公衆衛生：第7章 G「感染症対策」(p.250～271)</p> <p>臨外看総：第1章 D「感染症」(p.25～36)</p> <p>臨床検査：第8章「微生物学的検査」(p.224～256)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器)：第5章「骨折」(p.96～114)</p> <p>成人看護学 [12] (皮膚)：第5章 D「物理・化学的皮膚障害」(p.111～117)</p> <p>老年看護学：第2章 C-2「高齢者虐待」(p.48～53)</p> <p>病理学：第3章 I「ショック」(p.42～43)、第2章「細胞・組織の障害と修復」(p.14～26)、第17章 1「骨折」(p.306)</p> <p>病態生理学：第1章 D-2「創傷治癒」(p.17～18)、第2章 A-2-1「皮膚の直接傷害による正常性の破綻」(p.39～40)</p> <p>臨外看総：第1章 F「外傷とショック」(p.47～52)、第3章 A-2「創傷管理」(p.146～152)、第9章 D-1「創傷治癒の経過」(p.363)</p> <p>救急看護学：第5章 H「体温異常への対応」(p.224～229)、I「外傷への対応」(p.229～249)、J「熱傷への対応」(p.249～258)、第6章 O「創傷処置」(p.341～342)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 D-2-2「出血性ショック」(p.67)、I「創傷とケア」(p.98～105)</p> <p>リハビリテーション看護：第3章 B「骨折」(p.92～115)</p>
		e 精神疾患	<p>小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：第18章「精神疾患と看護」(p.482～513)</p> <p>母性看護学 [2] (母性看護学各論)：第6章 E「精神障害合併妊婦と家族の看護」(p.474～481)</p> <p>老年看護学：第6章 C-1「うつ」(p.292～297)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第4章 C「精神障害の診断と分類」(p.155～220)</p> <p>臨外看総：第4章 B-4-2中「PTSD」(p.186)</p> <p>精神保健福祉：第12章「PTSDと精神保健福祉」(p.240～256)</p>
		f 小児疾患	<p>小児看護学 [2] (小児臨床看護各論)：各章の「おもな疾患」の項に収載</p> <p>病理学：第8章「先天異常と遺伝子異常」(p.116～134)</p> <p>病態生理学：第1章 G「先天異常と遺伝子異常」(p.28～31)、第6章 B-1-3「心房と心室の機能障害」(p.115～117)、第7章 B-1-3「気管支のアレルギーと過敏性の亢進」(p.138～139)</p>
		g 高齢者の疾患	<p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第5章 I「認知症」(p.221～228)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器)：第5章 H-6「骨粗鬆症」(p.181～182)</p> <p>老年看護学：第6章 B「疾患を持つ高齢者への看護」(p.262～291)</p> <p>老年看護 病態・疾患論：第4章「高齢者の疾患の特徴」(p.118～260)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第4章 C-7-1「認知症」(p.198～205)</p> <p>生化学：第17章 A「骨粗鬆症」(p.252～253)</p> <p>病理学：第7章 A「個体の老化と老年症候群」(p.106～107)、B「加齢に伴う諸臓器の変化」(p.107)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
12 薬物治療に伴う反応	A 主な薬物の作用と副作用	a 抗菌薬	病態生理学：第10章 D-4「カルシウム・リン代謝の障害」(p.231～232)、第12章 B-1-4「認知機能の障害」(p.255～257) 成人看護学 [11] (感染症)：第4章「感染症の治療」(p.232～247) 薬理学：第1章「抗感染症薬」(p.62～88) 微生物学：第11章 B-1「抗細菌薬(抗菌薬)」(p.176～184)
		b 抗ウイルス薬	成人看護学 [11] (感染症)：第4章 C-13「抗ウイルス薬」(p.244～246) 薬理学：第1章 C-3「抗ウイルス薬」(p.81～84) 微生物学：第11章 B-4「抗ウイルス薬」(p.189～195)
		c 抗癌薬	成人看護学 [4] (血液・造血器)：第4章 C-4-1「化学療法」(p.69～72) 薬理学：第2章「抗がん薬」(p.90～100) がん看護学：第4章 B「薬物療法」(p.110～137)
		d 強心薬・抗不整脈薬	成人看護学 [3] (循環器)：第5章 D-4-1「抗不整脈薬」(p.194～195) 薬理学：第7章 C「心不全治療薬」(p.194～198)、D「抗不整脈薬」(p.198～203)
		e 狭心症治療薬	成人看護学 [3] (循環器)：第5章 A-1-3「治療」(p.127～128) 薬理学：第7章 B「狭心症治療薬」(p.191～194)
		f 降圧薬・昇圧薬	成人看護学 [3] (循環器)：第5章 C-2-2「治療」(p.166～167) 薬理学：第7章 A「抗高血圧薬」(p.184～191)
		g 利尿薬	薬理学：第7章 E「利尿薬」(p.203～206)
		h 副腎皮質ステロイド	成人看護学 [11] (アレルギー)：第3章 B-1-1「副腎皮質ステロイド薬」(p.27～28) 成人看護学 [11] (膠原病)：第4章 C-2-1「副腎皮質ステロイド薬」(p.112)、第6章 C-1「薬物療法を受ける患者の看護」(p.145～148) 成人看護学 [12] (皮膚)：第4章 C「治療・処置」(p.64～68)、第6章 D「治療・処置を受ける患者の看護」(p.180～185) 生化学：第8章 C-6「副腎皮質ホルモン」(p.112～115) 薬理学：第4章 B-2「ステロイド性抗炎症薬」(p.122～124)
		i 糖尿病治療薬	成人看護学 [6] (内分泌・代謝)：第5章 B-1-4「糖尿病の治療—薬物療法」(p.144～147)、巻末資料「糖尿病治療薬」(p.308～312) 薬理学：第9章 A-1「糖尿病治療薬」(p.242～248)
		j 中枢神経作用薬	精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第5章 B-1「薬物療法」(p.227～242) 薬理学：第6章「中枢神経系に作用する薬物」(p.152～182)
		k 麻薬	薬理学：第6章 H「麻薬性鎮痛薬」(p.176～181)
		l 消炎鎮痛薬	薬理学：第4章 B「炎症と抗炎症薬」(p.118～124)
		B 医薬品の安全対策	a 混合の可否
	b 禁忌		看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章 E-3-2「患者にとって直接実害を及ぼす薬剤での間違いを防ぐ(禁忌薬に注意)」(p.110) 薬理学：第1部 第2章 E-2「薬物の副作用」(p.48～51)、付録③「添付文書」(p.318～321)
	c 保存方法		基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第9章 A-2-2「薬の管理」(p.276～277)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d 薬理効果に影響する要因	<p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 B-4 「注射事故防止のために求められる知識と技術」 (p.59、63)、E-2-3 「内服と薬特有の間違いの発生要因」 (p.107~109)</p> <p>薬理学 : 第 1 部 第 2 章 F-1 「医薬品に関する法律」 (p.52~54)</p> <p>薬理学 : 第 1 部 第 1 章 B-2 「薬物療法における看護師の役割」 (p.9~13)、D 「薬効の個人差に影響する因子」 (p.41~46)</p>

目標Ⅳ. 看護技術の基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
13 基本技術	A コミュニケーション	a 言語的コミュニケーション	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 1 章 B 「コミュニケーションの構成要素と成立過程」 (p.22~28)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 B 「健康問題を持つ大人と看護師の人間関係」 (p.94~100)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 6 章 A-3 「言語障害のある患者の看護」 (p.243~247)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 6 章 「医療安全とコミュニケーション」 (p.204~213)</p> <p>人間関係論 : 第 3 章 「コミュニケーション」 (p.50~69)</p> <p>緩和ケア : 第 4 章 A 「患者が納得して医療を受けるためのコミュニケーション」 (p.54~60)</p>
		b 非言語的コミュニケーション	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 1 章 B 「コミュニケーションの構成要素と成立過程」 (p.22~28)</p> <p>成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 B 「健康問題を持つ大人と看護師の人間関係」 (p.94~100)</p> <p>人間関係論 : 第 3 章 「コミュニケーション」 (p.50~69)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 5 章 F 「コミュニケーション」 (p.173~176)</p> <p>緩和ケア : 第 4 章 A 「患者が納得して医療を受けるためのコミュニケーション」 (p.54~60)</p>
		c 面接技法	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 B-1 「問診(面接)の技術」 (p.64)</p> <p>精神看護学 [2] (精神看護の展開) : 第 7 章 C-3 「話をすること、聞くこと」 (p.16~21)</p> <p>人間関係論 : 第 4 章 C-1 「人間関係を築く面接技法」 (p.92~97)</p>
	B フィジカルアセスメント	a バイタルサインの測定と評価	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 C-3 「バイタルサインの観察とアセスメント」 (p.86~107)</p> <p>救急看護学 : 第 4 章 A-2 「全身状態の観察とアセスメント」 (p.100~105)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 2 章 C 「系統別アセスメントの実際」 (p.26~36)</p>
		b 意識レベルの評価	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 C-3 「バイタルサインの観察とアセスメント」 (p.86~107)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経) : 第 3 章 B-1-2 「意識障害の分類・評価」 (p.67~69)</p> <p>臨外看護 : 第 4 章 A-2-1 中 「意識障害の評価」 (p.172)</p> <p>救急看護学 : 第 4 章 D-1 「脳・神経系の観察とアセスメント」 (p.114~117)</p>
		c 呼吸音聴取の方法と評価	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 D-2 「呼吸器系のフィジカルアセスメント」 (p.124~135)</p> <p>成人看護学 [2] (呼吸器) : 第 3 章 B-4 「呼吸の異常」 (p.61~65)</p>
		d 腸蠕動音聴取の方法と評価	<p>基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第 2 章 D-5 「腹部のフィジカルアセスメント」 (p.152~162)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		e 運動系の観察と評価(日常生活動作〈ADL〉・関節可動域〈ROM〉・徒手筋力テスト〈MMT〉)	成人看護学 [5] (消化器) : 第4章 A-2 「聴診」 (p.73~74) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第2章 D-6 「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」 (p.162~170)
	C 看護過程	a 情報収集	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 C-1-1 「情報収集とは」 (p.226~228)
		b アセスメント	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 C-1 「アセスメント(情報の収集と分析)」 (p.226~239)
		c 計画立案	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 C-3 「看護計画」 (p.247~252)
		d 実施	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 C-4 「実施」 (p.252~254)
		e 評価	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 C-5 「評価」 (p.254~256)
		f 記録	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 D 「看護記録」 (p.256~262) 臨外看総 : 第5章 A-5-4 「看護記録の記載について」 (p.195~196)
14 日常生活援助技術	A 食事	a 食事の環境	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第2章 B 「食事介助」 (p.32~35) 栄養学 : 第1章 C-1 「食事における看護師の役割」 (p.12~13)
		b 食事介助の方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第2章 B 「食事介助」 (p.32~35) 在宅看護論 : 第5章 C-2-3 「食生活・嚥下への介助のポイント」 (p.152~155) 栄養食事療法 : 第16章 A-4-2 「食事介助」 (p.236)
		c 誤嚥の予防	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第2章 B 「食事介助」 (p.32~35)、C 「摂食・嚥下訓練」 (p.35~42) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 A-9 「嚥下障害のある患者の看護」 (p.273~278) 在宅看護論 : 第5章 C-2-3 「食生活・嚥下への介助のポイント」 (p.152~155) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第4章 C 「誤嚥事故防止」 (p.168~174) 栄養食事療法 : 第3章 F 「摂食・嚥下障害」 (p.40~43)
	B 排泄	a 床上排泄	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第3章 A-2-3 「床上排泄援助」 (p.61~64)
		b 導尿	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第3章 B 「導尿」 (p.67~73) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 A-4 「排尿障害のある患者の看護」 (p.247~252) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第4章 D 「排尿管理」 (p.100~103)、第6章 V-A-1 「導尿を受ける患者の看護」 (p.265~266) 在宅看護論 : 第5章 C-2 「尿道留置カテーテル」 (p.200~206) 臨外看総 : 第9章 F-2-6 「導尿」 (p.379~380)
		c 浣腸	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第3章 C-2 「浣腸」 (p.74~77)
		d 摘便	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第3章 C-3 「摘便」 (p.77~78)
		e 失禁のケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II) : 第3章 A 「自然排尿および自然排便の介助」 (p.53~66) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第6章 II-4 「尿失禁のある患者の看護」 (p.216~220) 在宅看護論 : 第5章 B-3-4 「尿失禁の予防と工夫」 (p.158~159)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>臨外看総：第7章 C-3-2 中「人工肛門増設術を受ける患者」(p.263～264)、第9章 F-2-5「ストーマ(人工肛門)」(p.379)</p> <p>臨外看各：第3章 II-C-3「大腸手術患者の看護」(p.330～338)</p>
	C 清潔	a 入浴	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 A-2-1「入浴・シャワー浴」(p.149～156)</p> <p>在宅看護論：第5章 B-5「清潔に関する在宅看護技術」(p.170～176)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第4章 E「入浴中の事故防止」(p.178～183)</p>
		b 清拭	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 A-2-2「全身清拭」(p.156～162)</p> <p>在宅看護論：第5章 B-5「清潔に関する在宅看護技術」(p.170～176)</p>
		c 口腔ケア	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 A-2-10「口腔ケア」(p.185～192)</p> <p>成人看護学 [15] (歯・口腔)：特論「口腔ケア」(p.258～279)</p> <p>在宅看護論：第5章 B-5「清潔に関する在宅看護技術」(p.170～176)</p>
		d 洗髪	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 A-2-3「洗髪」(p.162～171)</p> <p>在宅看護論：第5章 B-5「清潔に関する在宅看護技術」(p.170～176)</p>
		e 部分浴	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 A-2-4「手浴」(p.171～174)、A-2-5「足浴とフットケア」(p.174～176)</p> <p>在宅看護論：第5章 B-5「清潔に関する在宅看護技術」(p.170～176)</p>
		f 陰部洗淨	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 A-2-6「陰部洗淨」(p.177～180)</p> <p>在宅看護論：第5章 B-5「清潔に関する在宅看護技術」(p.170～176)</p>
		g 整容	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 A-2-9「整容」(p.183～185)</p>
		h 寝衣交換	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第6章 B-2-2「病衣・寝衣の交換」(p.196～200)</p>
	D 活動と休息	a 睡眠	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第4章 B「睡眠と休息の援助」(p.116～126)</p>
		b 体位	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第4章 A-2「体位」(p.93～96)</p>
		c 体位変換	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第4章 A-3「体位変換」(p.96～104)</p>
		d 移動・移送	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第4章 A-4「移動」(p.104～106)、A-5「移乗・移送」(p.106～115)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器)：第6章 F-1-3「応急固定法と運搬法」(p.265～266)</p> <p>在宅看護論：第5章 B-4「移動・移乗に関する在宅看護技術」(p.160～170)</p>
		e ボディメカニクス	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.86～93)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器)：第6章 A-2-2「就床患者の体位と身体各部の相互位置関係」(p.198～201)</p>
		f 廃用症候群の予防	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術 II)：第4章 A-1-1「よい姿勢」(p.86～90)</p> <p>成人看護学 [10] (運動器)：第6章 A-3-1「安静臥床の有害作用の防止」(p.201～203)</p> <p>成人看護学 [12] (皮膚)：特論 A「褥瘡の予防とケアの動向」(p.238～240)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			在宅看護論：第5章C-1「褥瘡」(p.191～199) 臨外看総：第12章B-3-1「廃用症候群」(p.425～426) リハビリテーション看護：第3章B-3「骨折のリハビリテーションプログラム」(p.94～96)、B-4-2「関節拘縮」(p.102～106)、B-4-3「筋萎縮」(p.106～115)、第4章A-5-2「運動障害」(p.148～164)、B-5-1「運動障害」(p.201～218)
15 患者の安全・安楽を守る技術	A 療養環境	a 病室環境	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第1章「環境調整技術」(p.10～21)
		b 共有スペース	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第1章「環境調整技術」(p.10～21)
		c 居住スペース	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第1章「環境調整技術」(p.10～21)
	B 医療安全対策	a 転倒・転落の防止	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第14章E「転倒・転落防止」(p.459～462) 在宅看護論：第4章D-2-3「転倒事故の防止」(p.106～107)、D-4-1「転倒予防に関する教育と環境整備」(p.112～113) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第4章B「転倒・転落事故防止」(p.142～168)
		b 誤薬の防止	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第14章B「誤薬防止」(p.451～456) 在宅看護論：第4章D-2-2「薬物による医療事故防止」(p.104～106) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章「患者に投与する業務における事故防止」(p.39～112) 薬理学：第1部第1章B-2「薬物療法における看護師の役割」(p.9～13)
		c 患者誤認の防止	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第14章D「患者誤認防止」(p.458～459) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第5章A-2「患者間違いのおもな要因と防止」(p.187～194)、第6章C-1-5「患者間違いの防止」(p.211)
		d 誤嚥・窒息の防止	臨外看総：第8章A-2-1「患者の確認」(p.279) 在宅看護論：第4章D-4-2「窒息の予防」(p.114)、第5章B-2-2「食生活・嚥下に関するアセスメント」(p.149～150) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第4章C「誤嚥事故防止」(p.168～174)、第6章C-2-2「摂食中の窒息・誤嚥事故防止における患者とのコミュニケーション」(p.212)
		e 情報伝達と共有・管理	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章C「看護の継続性と情報共有」(p.40～53) 看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第3章G「情報のマネジメント」(p.128～136) 看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第6章「医療安全とコミュニケーション」(p.204～214)、第7章A「組織としての医療安全対策」(p.200～206) 臨外看総：第6章D-3「危険防止対策」(p.216～224) クリティカルケア看護学：第7章B-1「リスクマネジメント」(p.229～231)
	C 院内感染防止対策	a スタンダードプリコーション	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第13章B「標準予防策(スタンダードプリコーション)」(p.415～423) 成人看護学 [11] (感染症)：第6章A「感染予防」(p.302～322) 看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第2章C-2-3「院内感染対策」(p.43～48) 微生物学：第12章C-3-2「標準予防策」(p.207～208) 臨外看総：第6章E-1「標準予防策」(p.224～229)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 手洗いの方法	<p>救急看護学：第4章A「周囲の安全確認とスタンダードプリコーション」(p.96～98)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章H「院内感染とクリティカルケア」「感染対策」(p.94～98)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第13章B-2-1「手指衛生」(p.415～418)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症)：第6章A-4-1「適切な手指衛生」(p.306～307)</p> <p>臨外看総：第6章E-1-2中「手指衛生」(p.224～226)、第8章C-2-1「手術時の手洗い・手指消毒」(p.306～308)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章G-1「手洗い」(p.176)</p>
		c 無菌操作	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第13章E「無菌操作」(p.432～449)</p> <p>臨外看総：第8章A-2-6「無菌操作」(p.281)</p>
		d 滅菌と消毒の方法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第13章D「洗浄・消毒・滅菌」(p.427～431)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症)：第6章A-6「洗浄・消毒・滅菌」(p.312～315)</p> <p>薬理学：第13章「消毒薬」(p.290～295)</p> <p>微生物学：第9章「滅菌と消毒」(p.143～154)</p> <p>臨外看総：第6章E-6-2「滅菌法の実際」(p.232～237)</p>
		e 針刺し・切創の防止	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第13章H「針刺し防止策」(p.443～447)</p> <p>成人看護学 [11] (感染症)：第6章A-8「職業感染対策」(p.316～319)</p> <p>臨外看総：第6章E-4「職業感染防止対策」(p.237～240)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第7章B-3-3「注射・点滴実施時の間違い」(p.235～236)</p> <p>臨床検査：第2章E-3-1「採血時の針刺し事故とその対策」(p.50～51)</p>
		f 感染性廃棄物の取り扱い	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第13章F「感染性廃棄物の取り扱い」(p.440～441)</p> <p>看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第3章F-5「廃棄物の取り扱いと管理」(p.127～128)</p> <p>微生物学：第9章A「バイオハザードとバイオセーフティ」(p.144)</p> <p>臨床検査：第2章E-3-2「患者および検体からの業務上の感染とその予防」(p.51～52)</p>
16 診療に伴う看護技術	A 栄養補給	a 経管栄養法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章D-1「経管栄養法」(p.42～49)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器)：第4章C-2-1「栄養療法の概要」(p.122～124)</p> <p>在宅看護論：第5章C-4「経管栄養」(p.214～226)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全)：第2章F「経管栄養(注入)業務と事故防止」(p.113～118)</p> <p>栄養学：第9章B-1「経腸栄養法」(p.187～188)</p> <p>臨外看総：第2章C-2-3中「経腸栄養法」(p.101～103)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章D-3-1「栄養摂取方法と管理上のポイント」(p.168～169)</p> <p>栄養食事療法：第2章B-2「経管・経腸栄養法」(p.24～26)</p>
		b 経静脈栄養法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章D-2「中心静脈栄養法」(p.49)</p> <p>成人看護学 [5] (消化器)：第4章C-2-1「栄養療法の概要」(p.122～124)</p> <p>在宅看護論：第5章C-5「在宅中心静脈栄養法(HPN)」(p.226～232)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 3 章 A-3-1 「中心静脈ラインの管理におけるおもな危険とその要因」 (p.123~125)</p> <p>栄養学 : 第 9 章 B-2 「静脈栄養法」 (p.188~189)</p> <p>臨外看総 : 第 2 章 C-2-3 中 「静脈栄養法」 (p.100~101)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 5 章 D-3-1 「栄養摂取方法と管理上のポイント」 (p.168~169)</p> <p>栄養食事療法 : 第 2 章 B-3 「経静脈栄養法」 (p.26)</p>
	B 薬物療法	a 与薬方法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 9 章 「与薬の技術」 (p.274~322)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 「患者に投与する業務における事故防止」 (p.39~118)</p> <p>薬理学 : 第 1 部 第 2 章 B-1 「薬物の投与経路」 (p.24~28)</p> <p>クリティカルケア看護学 : 第 5 章 C-1 「輸液の管理」 (p.159~162)</p>
		b 薬効・副作用(有害事象)の観察	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 9 章 A 「与薬の基礎知識」 (p.274~277)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 B 「注射実施後(点滴実施中)の観察・管理で知っておくべき注射薬の知識」 (p.63、65)、第 2 章 E-4 「内服と薬事故防止のために必要な知識・技術」 (p.110、112)</p> <p>薬理学 : 第 1 部 第 1 章 B-2 「薬物療法における看護師の役割」 (p.9~13)</p> <p>臨床検査 : 第 5 章 N 「血中薬物濃度の検査」 (p.165~167)</p>
	C 輸液管理	a 刺入部位の観察	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 9 章 4 「静脈内注射」 (p.306~322)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 B-3-2 「注射実施後(点滴中)の観察・管理におけるおもな危険とその要因」 (p.56~59)</p> <p>臨外看総 : 第 2 章 C-1 「体液管理と輸液」 (p.90~97)</p>
		b 輸液ポンプの取り扱い	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 9 章 4 「静脈内注射」 (p.306~322)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 C 「注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ関連)での事故防止」 (p.66~80)</p> <p>臨外看総 : 付録 D 中 「輸液ポンプ」 (p.444)</p>
		c 点滴静脈内注射の管理	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 9 章 4 「静脈内注射」 (p.306~322)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 A 「業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止(総論)」 (p.39~42)、第 2 章 B 「注射業務と事故防止」 (p.42~66)、第 2 章 C 「注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ関連)での事故防止」 (p.66~80)</p>
	D 採血	a 穿刺部位	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 11 章 B-1 「血液検査」 (p.357~363)</p> <p>看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第 2 章 B-3-2 「静脈穿刺時の危険—神経損傷、動脈誤穿刺」 (p.56)</p> <p>臨外看総 : 第 3 章 A-1-1 「採血」 (p.126~130)</p>
		b 採血方法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 11 章 B-1 「血液検査」 (p.357~363)</p> <p>臨外看総 : 第 2 章 A-2-1 中 「静脈採血の手順」 (p.127~129)</p> <p>臨床検査 : 第 2 章 D-3-2 中 「血液検体の採取」 (p.39~40)</p>
	E 電法	a 電法の種類と適応	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 5 章 B-1 「援助の基礎知識」 (p.133~134)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 温電法の方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 B-2-1「温電法」(p.134~136)
		c 冷電法の方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 B-2-2「冷電法」(p.136~137)
	F 呼吸管理	a 酸素吸入時の原則	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素吸入療法」(p.202~207) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114) 在宅看護論 : 第5章 C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.237~242) 臨外看総 : 第2章 B-1「酸素療法」(p.80~85) 救急看護学 : 第6章 C「酸素投与」(p.295~297)
		b 酸素ボンベの取り扱い	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素吸入療法」(p.202~207) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114) 在宅看護論 : 第5章 C-7「在宅酸素療法(HOT)」(p.237~242)
		c 酸素流量計の取り扱い	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素吸入療法」(p.202~207) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114)
		d 鼻腔カニューラ	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素吸入療法」(p.202~207) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114) 救急看護学 : 第6章 C「酸素投与」(p.295~297)
		e 酸素マスク	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素吸入療法」(p.202~207) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114) 臨外看総 : 第2章 B-1-3「酸素投与方法」(p.83~85) 救急看護学 : 第6章 C「酸素投与」(p.295~297)
		f ネブライザー	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 D「吸入」(p.226~229) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-6「吸入療法」(p.158~159)
	G 吸引	a 口腔内・鼻腔内吸引	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B「吸引」(p.207~214) 救急看護学 : 第6章 F-1「口腔・鼻腔内吸引」(p.304~306)
		b 気管内吸引	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B「吸引」(p.207~214) 在宅看護論 : 第5章 C-8-4「排痰に関する在宅看護技術」(p.250~252) 臨外看総 : 第12章 B-2-2「気管吸引」(p.414~417) 救急看護学 : 第6章 F-2「気管吸引」(p.306~308) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-3「気管吸引の技術」(p.154~155)
		c 体位ドレナージ	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 C-2「体位ドレナージ」(p.217~220) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第6章 B-1「体位ドレナージ」(p.234) 臨外看総 : 付録 A「体位ドレナージ」(p.435)
	H 救命救急処置	a 気道の確保	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.336~346) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-5「気道確保」(p.122~126)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 人工呼吸	<p>臨外看総：第4章 A-2-2「気道確保—救急のA (airway)」(p.172~174)</p> <p>救急看護学：第5章 A-1-1「気道確保」(p.163~164)、A-2-3「気管挿管・気道確保」(p.172~173)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)</p> <p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.336~346)</p> <p>臨外看総：第4章 A-2-3「人工呼吸(呼吸の確保・維持)—救急のB(breathing)」(p.174~175)</p> <p>救急看護学：第5章 A-1-3「人工呼吸」(p.165~167)、5章 A-2-3「気管挿管・気道確保」(p.172~173)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)</p>
		c 心マッサージ	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.336~346)</p> <p>臨外看総：第4章 A-2-4「心臓マッサージ」(p.175~177)</p> <p>救急看護学：第5章 A-1-2「胸骨圧迫」(p.164~165)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)</p>
		d 直流除細動器	<p>成人看護学 [3] (循環器)：第5章 D-4-2「直流通電による電気ショック」(p.196)</p> <p>救急看護学：第5章 A-1-4「除細動」(p.167~170)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)</p>
		e 自動体外式除細動器 (AED)	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.336~346)</p> <p>成人看護学 [3] (循環器)：第5章 D-3-7「心室細動」(p.190~191)</p> <p>臨外看総：第4章 A-2-4中「電氣的除細動」(p.176)</p> <p>救急看護学：第5章 A-1-4「除細動」(p.167~170)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)</p>
		f 止血	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第10章 C「止血法」(p.348~351)</p> <p>臨外看総：第3章 A-1-5「止血」(p.140~142)</p> <p>救急看護学：第6章 B「止血法」(p.289~295)</p>
		g 体温の保持・冷却	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第7章 F「体温管理の技術」(p.235~242)</p> <p>救急看護学：第5章 H「体温異常への対応」(p.224~229)</p> <p>クリティカルケア看護学：第5章 E「体温管理」(p.170~173)</p>
	I 皮膚・創傷の管理	a 包帯法	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 B-3「包帯法」(p.261~265)</p>
		b 創傷の管理	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.250~255)、B「創傷処置」(p.255~265)</p> <p>臨外看総：第3章 A-2「創傷管理」(p.146~152)、第9章 D-2「創傷治癒の促進」(p.363~368)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 I「創傷とケア」(p.98~105)</p>
		c 褥瘡の予防・処置	<p>基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第8章 C「褥瘡予防」(p.265~271)</p> <p>成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 A-13「褥瘡の予防と看護」(p.291~296)</p> <p>成人看護学 [12] (皮膚)：特論「褥瘡患者の看護」(p.238~255)</p> <p>在宅看護論：第5章 C-1「褥瘡」(p.191~199)</p> <p>臨外看総：付録 C「褥瘡の予防と処置」(p.439~441)</p>

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			<p>クリティカルケア看護学：第3章 I-2-2「褥瘡」(p.102)</p> <p>リハビリテーション看護：第4章 C-6-1「褥瘡」(p.256～258)</p>
	J 災害看護	a トリアージ	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第7章 B-3-2「災害サイクル別の看護活動」(p.304～310)</p> <p>看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：第2章 D-1-6「トリアージ」(p.95～102)</p> <p>臨外看総：第4章 B-3-2「初期情報からのアセスメントおよびトリアージ」(p.181～185)、B-4「災害医療と看護」(p.185～186)</p> <p>救急看護学：第1章 C-3-4「災害時の医療」、第3章 F「災害時における対応」(p.86～93)</p>
		b 応急処置の原則	<p>看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：資料1「応急処置・搬送法」(p.312～323)</p> <p>臨外看総：第4章 A-2-1「救急処置法の原則」(p.172～174)</p> <p>救急看護学：第3章 F「災害時における対応」(p.86～93)</p> <p>クリティカルケア看護学：第3章 I「創傷とケア」(p.98～105)</p>
		c 搬送・移送	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第7章 B-3-2「災害サイクル別の看護活動」(p.304～310)</p> <p>看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：資料1「応急処置・搬送法」(p.312～323)</p> <p>救急看護学：第3章 F「災害時における対応」(p.86～93)</p>
		d こころのケア	<p>基礎看護学 [1] (看護学概論)：第7章 B-4「心理的回復の過程」(p.310)</p> <p>老年看護学：第8章 C-3「災害のサイクルに伴う看護支援」(p.388～394)</p> <p>精神看護学 [1] (精神看護の基礎)：第2章 C-3「ストレスとしての心的外傷」(p.92～94)、第4章 C-4-3「重度ストレス反応および適応障害」(p.185～187)</p> <p>看護の統合と実践 [3] (災害看護学・国際看護学)：第2章 F「災害とこころのケア」(p.149～165)</p>